

平成28年度 貨物自動車運送事業における
中継輸送実証実験モデル事業 有識者検討会
第3回 議事概要

1. 日 時

平成29年1月18日（水） 14：30～16：00

2. 場 所

中央合同庁舎2号館低層棟1階 国土交通省第1会議室

3. 議事概要

○中継輸送の実証実験に向けた調整状況について

(1) 中継パターンについて

（森田委員）

ドライバー交替方式は、他人が自分のトラックに乗ることへの抵抗感や、ドライバーにストレスが生じる。

（加藤貨物課長）

貨物積替え方式の課題や問題を洗い出す事を目的として実証実験を実施する事は良いが、中継拠点での荷役料や利用コスト、各種保険など、中継輸送を行うことでのコスト増の要因と概算費用を整理してほしい。

（齊藤委員）

中継拠点での荷役を拠点荷役としドライバーの負荷を低減させると、新たなコストが発生する。

(2) ペアの作成について

（加藤貨物課長）

ペアを作るには、上り・下りの貨物量のバランスが必要である。

（松崎委員）

ペアを作るうえで大前提となるのは「信頼関係」である。

(3) 荷主について

(加藤貨物課長)

実証実験を行う上で、荷主から断られたケースはないか。

(事務局)

荷主の協力は得られている。

○コーディネートの実施概要

(1) ドライバー交替実施に向けた事業者の「3つの悩み」について

(松崎委員)

3つの悩みが解決できるよう、中継輸送実施手順書に記載して頂きたい。
特に、協定書については例示等、3つの悩みが解決できるよう、中継輸送実施手順書に記載して頂きたい。

(2) 保険への対応について

(加藤貨物課長)

事務局にて、保険項目を整理して、今回の実証実験を通じた対応パターンをまとめてほしい。

○報告書の作成について

・長距離区間の事例について

(松崎委員)

既に実務で行っている企業にヒアリングを行い、成功事例として報告書に盛り込むべきである。

以 上